

静岡県下過去15年間の児童虐待死亡事例統計

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本法医学会 公開日: 2013-08-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 野澤, 秀樹, 渡部, 加奈子, 鈴木, 加奈子, 鈴木, 修 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/1858

12. 静岡県下過去15年間の児童虐待死亡事例統計

野澤 秀樹・鈴木（渡部）加奈子・

鈴木 修（浜松医大）

昨年日本法医学会による子供の虐待解剖事例のアンケートが行われたのを機会に、浜松医大でも静岡県下過去15年間の被虐待児死亡事例を集計分析した。

静岡県内死亡事例の地域分布では、約半数が県西部に集中していた、過去15年間の事例数の推移では、全体として著明な増加は認められなかったが、ここ5年ほどは15年前頃に比べ明らかに増加していた。性差については若干男児が多かった。年齢についてはすべて6歳以下であった。何番目の子が虐待により死亡したかについては半数が第1子、ついで第2子が多く、死亡児第1子9人のうち8人は1人っ子であった。加害者は実母が約45%を占めていた。虐待のきっかけとしては、被害児の反抗的態度が特に多く、その他に被害児の泣き声や尿便失禁等が多かった。虐待の手段・方法としては、手その他による殴打が約45%を占め、その他に突き飛ばしやタバコ等による火傷等があった。死因では頭部外傷が約6割を占め、次いで窒息死も多く、腹部外傷、感染症、全身衰弱も認められた。身体所見では、発育の程度は正常が半数以上を占め、残り全ては不良であった。胸腺萎縮は半数以上に認められた。1例に副腎萎縮、4例に肺水腫を認めた。